横山将監小野秀綱の供養塔と伝わる鎌倉期の宝篋印塔 都

武士の登場

平安時代に入ると、武蔵、上野、甲斐、信濃に「牧」が置かれるようになった。武蔵国では、石川、小川、由比、立野に武蔵四牧があったとされ、八王子市を中心に多摩地方に広く所在していたとされる。また、後に皇室の料馬を育てるための勅旨牧が小野牧として置かれるようになった。牧での馬の飼育は、やがて東国武士を育てる素地ともなっていった。

こうして、武蔵国には武蔵七党または十党が登場してくる。一般的に、横山党、猪俣党、児玉党、丹党、西党、村山党、野与党（私市党＝きさいちとう）、都築党、秩父党がそれである。党首の先祖の多くは、都から来た有力者と云われているが、その殆どが任地に土着し、地元の地名を名乗る場合が多い。ちなみに、万葉集に書かれている多摩の横山から横山党の名を付けた小野氏などは典型的な例といえよう。

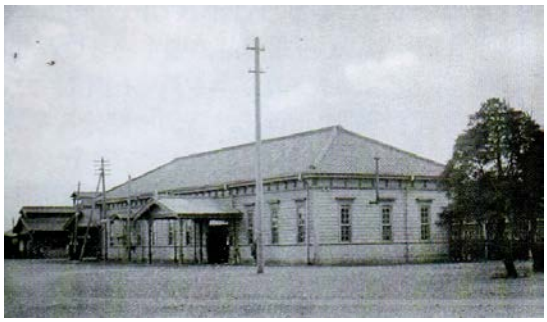
◇散歩のみどころ

ＪＲ八王子駅北口から浅川の暁橋まで凡そ四㎞の行程。旧八王子駅の入口から、駅前横丁、あんま横丁を甲州街道へ。街道を左に曲がり野猿街道の入口へと歩き、旧横山郵便局、長田作左衛門邸跡、横山本陣跡、郵便横丁、壺伊勢屋事件跡などを見学。更に、新遊郭横丁を北へ。ヤミ市通り、日活日映映画館跡を見ながら横山党の本拠地八幡八雲神社へ歩く。更に、いちょうホール通りを西へ。小谷横丁を横断していちょうホールで小休止。午後は、来た道を東へ戻り、遊郭横丁を横切り専念寺へ。そして、松原庵星布尼、奥津雁江、明治の八王子大火関係の墓、また供養塔などがある大義寺へ。大元寺横丁を通り、北大通りに出、横山氏の供養塔がある妙楽寺へ。再び遊郭横丁に戻り、毘沙門堂へ。田町の新遊郭跡を裏から入り、大門に出て赤毛馬頭観音をお参り後、暁橋で解散。

①八王子駅

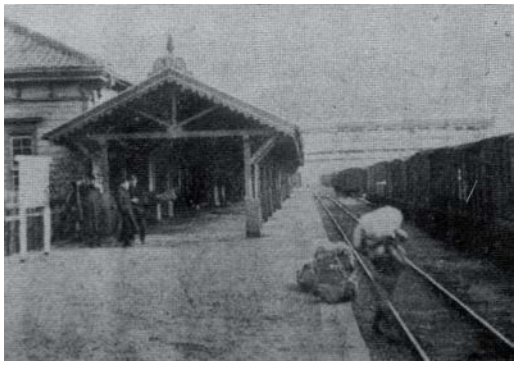
明治十二年（一八七九）から明治十五年まで使われた行政上の呼称。明治十一年七月二十七日、太政官布告の郡区町村編成法が発令された。同年十一月十八日神奈川県令通達によると、江戸時代から、八王子十五宿の地域は横山宿として総括されており、八王子の名は消えていた。これが問題視され、八王子派と横山派の対立抗争となった結果、八王子駅と名称が定められた。

明治三十四年（一九〇一）、八王子～上野原間が延長開通したのを機に、以前あった多摩相互病院の場所に駅舎を新築移転した。さらに、昭和二十年（一九四五）八月、アメリカ軍の空襲により駅舎が焼失したため、昭和二十五年（一九五〇）四月現在地に移転した。



八王子駅停車場　絵葉書　明治後半頃
中央線の建設に合わせて、移転・建設された駅舎

現在の八王子駅北口



八王子駅停車場構内　明治 43 年

●旧駅前横丁（コーヒー横丁）

旭町

以前建っていた多摩相互病院の場所は、旧八王子駅舎があったところ。現在の駅舎より百五十ｍ程西寄りにあった。今でも駅前の道は健在で、現在駐輪所となっている。八王子で一番古いとされるコーヒー専門店「田園」は今も営業を続けている。

旧八王子駅入口駅前横丁（旭町）

●三崎町

ＪＲ八王子駅の西北にある。大正元年（一九一二）十月一日町名改正で成立した。大正六年、八王子市制施行を経て、昭和四十三年（一九六八）住居表示を改正実施し、今日に至っている。

江戸時代の八王子横山十五宿のうち、馬乗宿の一部である。

●中町

ＪＲ八王子駅北口から西北へと延びるユーロードの中央に位置する。大正元年（一九一二）十月一日町名改正により、それまで横山町の一部と馬乗町の一部が中町となり誕生。昭和四十三年（一九六八）住居表示を改正実施し、今日に至っている。

江戸時代の馬乗宿の一部である。

●東町

ＪＲ八王子駅の北に位置し、駅前商業地を形成している。大正元年（一九一二）十月一日町名改正で、八王子町子安町の一部を分割し成立した。大正六年の八王子市制施行後もその町域は変わらず、昭和四十三年（一九六八）住居表示の改正実施を経て現在に至っている。

江戸時代の子安宿の一部である。

●横山町

市街地の甲州街道沿いにある。明治二十二年（一八八九）八王子町の成立により、それまでの八王子横山町が横山町となり、大正元年（一九一二）十月一日町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。江戸時代の八王子横山十五宿のうちの横山宿である。

昭和四十三年（一九六八）住居表示の改正実施を経て現在に至っている。中央を甲州街道が走り、市守神社や横山郵便局がある。

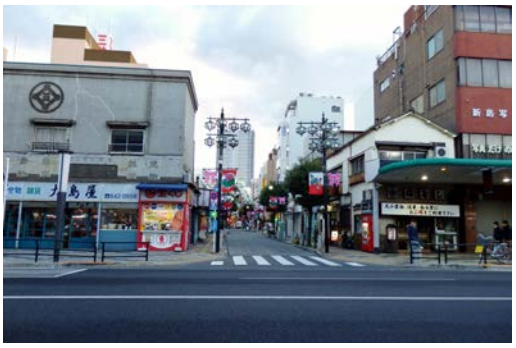
【馬乗宿】

江戸時代から明治初期にかけての宿場名。八王子横山十五宿の一つ。江戸時代に代官屋敷があり、「毎日門前にて乗馬・稽古などありしゆえ」と武蔵名所図絵に記述があることから、この名が起こったという。

明治十五年（一八八二）馬乗町となる。明治二十二年（一八八九）までは八王子馬乗町と称していたが、同年八王子町の町制施行で再び馬乗町となる。大正元年（一九一二）大部分が天神町、三崎町、南町となり、大正六年（一九一七）残部が中町となった。

●あんま横丁

甲州街道横山町一丁目から三崎町に抜ける道を云い、東町と中町の境に位置する。明治初年から明治三十年（一八九七）までの間、横丁にあんま長屋があり、そこから名付けられたもの。明治三十年四月二十二日の八王子大火で、横丁のあんまが焼死している。「八王子案内」には、アンマ横丁として地図に記載されている。現在は、駅前銀座通り。



あんま横丁（横山町）手前は甲州街道
現、グラーン三番街通り

あんま横丁（中町）
現、グラーン三番街通り

②横山郵便局

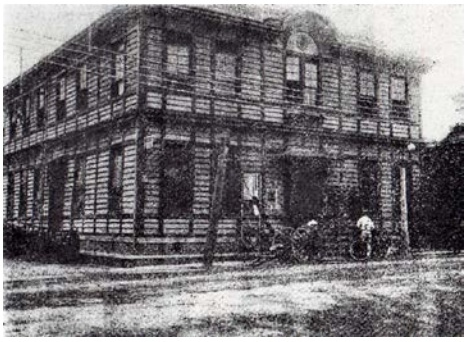
横山町

「八王子市史」によると、八王子の郵便制度は明治五年横山宿に始まり、明治四十二年に現在の横山町郵便局のある場所に新築移転した。

掲載した写真は、「明治時代の八王子」から引用したもので、明治四十年頃とある。その頃の甲州街道は舗装もされていない道にもかかわらず、木造二階建ての立派な洋館造りで、二階建てもまばらな平屋が多い家並の中で一際目立っていたという。

昭和二十八年八王子駅前に新局舎が出来るまで本局であった。

旧郵便局跡（横山町）
野猿峠街道の始め



明治時代、横山町にあった郵便局

●横山宿、本陣・脇本陣の問屋場跡

八王子十五宿のなかで本陣と脇本陣は、横山宿と八日市宿それぞれに置かれていた。脇本陣の場所は、今の横山町郵便局周辺といわれている。

天保十四年（一八四三）の「甲州道中宿村大概帳」には、横山宿は本陣一軒、脇本陣二軒と記され「是は先年類焼後、未だ普請出来ず」と注記されている。

●郵便局横丁

横山町

甲州街道と旧郵便局があった横山町から中央線の陸橋を抜ける道。

●長田作左衛門邸跡

長田作左衛門（？～一六一七）は川島作左衛門ともいう。もとは北条氏の家臣であったが八王子城落城後前田家に起用され、大久保長安の指揮に従って現在の八王子市街に宿場を構成させた人物と伝えられる。

その新しい八王子宿の初代名主となり、現在の横山町郵便局あたりに邸宅を構えたといわれている。

極楽寺境内には幕末に建てられた供養塔があるが、架空人物説もある謎の人物と言われている。

●鉄砲横丁

甲州街道横山町二丁目から三崎町に抜ける横丁の一つ。現在のパーク壱番街通り辺り。明治十六年（一八三三）この横丁に居住した浅草六区娯楽街を起こした事業家山田喜久次郎、別名「鉄砲喜久」から呼ばれた横丁。

鉄砲喜久は八王子～甲府間の郵便馬車の別当をし、ピストルを携帯していて、八王子の博徒を相手に大立回りをした際に、ピストルを一発威嚇発射し、驚かしたことから鉄砲喜久と呼ばれるようになる。喜久次郎は三十歳で八王子を去り浅草に移り、浅草六区を起こす。鉄砲喜久の波乱万丈の生涯を描いた油棚憲一著『鉄砲喜久一代』がある。

●壺伊勢屋事件

甲州街道横山大通り北側に壺伊勢屋呉服店がある。池田屋事件後の慶応三年（一八六七）十二月十五日、代官江川家から急使を受けた日野の新撰組佐藤彦五郎は農兵の剣士を連れ、当時旅籠を経営していた壺伊勢屋（壺伊勢）に止宿していた薩邸浪士の一味を駒木野農兵隊や千人隊にも応援を得て襲撃した。この薩邸浪士は、江戸の薩摩屋敷を拠点に江戸市中を混乱に陥れるため活動していた浪士たちで、背後に西郷隆盛がいたという。

この事件で、浪士二人が死亡、農兵も一人がピストルで腹部を撃たれ死亡、一人は深手を負い三日後死亡、一人が軽傷を負った。浪士達の一部は、向かいの柳瀬屋にも止宿していたという。

この乱闘事件の薩摩浪士隊の副総監をしていた落合直亮（なおあき）は、八王子小仏の関所の関守をしており、民間の志士として活躍した国学者であった。

壺伊勢屋の壺は、御茶壺道中の茶壺ではないかと伝えられている。

伊勢屋の屋号

伊勢屋呉服店（横山町）
看板にある屋号は銅でできている

③ヤミ市通り

本町・元横山

昭和二十年（一九四五）八月十五日太平洋戦争終結後の荒廃した日本の各都市には、多くの露店商が仮店を出して日用雑貨、生活用品、食べ物等を商う店を出した。これを「ヤミ市」と呼んだ。八王子でも昭和二十年九月頃から、甲州街道北側の小谷横丁から八幡神社北角の通りに露店が並んでいた。また、この通りに面して民衆劇場の日活館もあり、昭和二十三年頃は空前の人出で賑わっていた。

闇市通り　（本町）

④八幡・八雲神社 都

元横山町二丁目

勧請　横山党
祭神　誉田別尊（ほんだわけのみこと）
　　素盞嗚尊（すさのおのみこと）。
社宝　足利義稙、守り本尊八幡大菩薩の像、弓矢絵巻きなど
創建　小野泰隆、横山義孝
例祭　八幡神社九月十五日
　　八雲神社七月二十三

日活映画劇場跡（元横山町）
闇市通りの北側
ビルはライオンズマンション

摂社　横山神社（横山義孝公）
末社　永寿稲荷神社・厳島神社・江島神社・赤星稲荷神社・恵比寿大国社

八幡神社の創建は明らかでないが、一説には延長二年（九二四年）武蔵国司小野泰隆が京都石清水八幡宮を邸内に勧請したものと伝えられ、天慶三年（九四〇年）武蔵権守横山義孝が社殿を再建、横山氏の庄の総鎮守としたといわれている。

八雲神社は明治二年（一八六九）天王社を改名したもので、天王社の沿革は慶長年間（一五九六～一六一五）川口から流れてきたご神体（牛頭天皇）を浅川板ヶ淵で拾い上げ、八幡宮に合祀したことによる。

戦前からこの社は天王森と呼ばれてきたが、昭和二十年（一九四五）の八王子空襲で社殿とともに焼失した。相殿に八王子神を奉斎する。

境内は、横山党根拠地として東京都旧跡に指定されている。

八幡八雲神社

八幡八雲神社鳥居

拝　殿

先のアメリカ軍による八王子大空襲で幹の中が大きく焼けてしまったが生き残り、その中から板碑が発見されている。板碑の高さは、六十九・五cm、幅は二十二・五cm。「阿弥陀三尊建保二年(一二一四)十月廿八日」と刻されている。この板碑がその頃、木の根に埋められていたかは不明である。

●横山神社

横山党の始祖である横山義孝公を祀った神社。

横山党は、平安時代末期から鎌倉時代前期にかけて存在した武蔵国の武士団。いわゆる「武蔵七党」の一つである。その中でも七十余りの氏族を含む最大規模の武士団であった。神社の境内付近一帯が横山党の根拠地であったといわれている。

横山神社の前には、銀杏の古木と大欅の御神木がある。このご神木は

横山神社（八幡八雲神社境内）

欅の根元にある板碑

(右)神楽殿　　(元横山町)
白いマンションが東映映画劇場跡

末社の神社（八幡八雲神社内）

●横山党

武蔵七党の一つ。現横山町から多摩丘陵一帯、相模北、甲州郡内、北武蔵に分散していた。

敏達天皇八代後斎小野氏の子孫、武蔵国造の子孫と称するが系譜は不詳。保元・平治の乱で活躍し、十二世紀初頭には反逆者として追討を受けたが屈せず、建保元年（一二一三）の和田合戦では婚姻関係から和田義孝方となり、秩父一門、三浦一門、鎌倉権五郎景政など在地の有力武士団に攻められ滅んだ。

【横山宿】

江戸期から明治初期の甲州街道の宿名。戦国期に北条氏照が滝山城に居城した際、城下に横山、八日市、八幡の三宿をつくった。八王子城に移った際は、三宿ともに移転。

北条氏滅亡後、現在の八王子の地

に大久保長安によって新たな宿が建設され、三宿の名も移され、のち八王子横山十五宿へと発展した。

横山宿は十五宿の中心をなし、八日市宿とともに本宿とされ、両宿一ヶ月交代で人馬継立てをつとめた。甲州街道に沿って東から四日場・十四日場・二十四日場が立つ六斎市で、西に接する八日市宿とともに賑わいを見せた。

明治十五年（一八八二）八王子横山町となり、明治二十二年冠称を廃して横山町となった。

●多摩の横山

万葉集巻二十に載る「多麻能余許夜麻」以来、多摩郡の丘陵地を指す呼称。今の多摩丘陵をいう。

●横山地名考

古代以来の地域名。古くは萬葉集の「多摩の横山」あるいは「眉引きの横山」と記されてより今日にいたるまで、八王子地域で連綿と受け継がれていた地名。

鎌倉期の横山荘、滝山城下の横山宿、八王子城下の横山宿をへて、八王子城落城後は浅川南岸の横山と呼ばれていた地に甲州道中（甲州街道）が設置され、その宿駅として横山宿が建設された。北に元横山村が別れて誕生した。また明治期には町村制による合併村として横山村も生まれた。

●横山荘

鎌倉期以来の荘名。「吾妻鏡」の建保元年（一二一三）の記事に横山荘が大江広元に与えられたとの記載がある。また戦国期の天文二十二年（一五五三）造立の子安神社懸仏、天文二十三年の住吉神社懸仏に横山庄の名が見える。

八王子市史には、荘域を現在の八王子南半分と由木地区ならびに町田市北部にわたるとしている。

●小野路道

戦国期以来の道の名。子安村から猿丸峠を越え、下柚木・越野を経て小野路に出、鎌倉街道に合した。江戸期には小野路街道あるいは小野路往還とも呼んだ。現在の野猿街道に一部が重なっている。

●小野泰隆

十世紀初めの武蔵守。小野篁七代の孫で相模守時季の子。孝泰とも書く。従四位七。

●小野牧

武蔵国におかれた勅旨牧。承平元年（九三一）に設けられ、貢納の馬の割当は四十疋と、武蔵四牧に比べて多かった。別当として小野諸興の名が知られる。

●小野諸興

横山党の始祖。小野隆泰の子。承平元年（九三一）十一月七日小野牧別当となり、天慶二年（九三九）武蔵権介に昇格。しかし平将門の反乱で、武蔵国府は混乱し辞任。官界を去って地方人として土着。小野姓を改め、居住地の名をとって横山とし、名も義隆または義孝とした。

●横山時兼

？～建歴三年（一二一三）五月。

五月三日の和田義盛の乱に加わり、一族三十一人と共に敗れる。横山党七代、時広の子、太郎と称する。この乱により横山庄は没収され、横山党は滅亡した。

●横山重真

？～元弘三年（～一三三三）。横山党の後裔。新田義貞の鎌倉攻めに加わり、鎌倉で戦死した。

●横山島之坊

「桑都日記」によれば、修験者として八王子城の合戦で活躍した。のちに嶋之坊宿として宿の地名に残る。

●横山十二郷

室町中期の「米良家文書」に出る地名。「多斉郡の内よこやま十二郷一円」とある。多斉郡は多西郡のこと。

八王子市史にはこの十二郷を、宇津木郷、谷慈郷、中野郷、横山村、小比企郷、比野村、由木郷、大塚郷、横河郷、由比郷、案下郷、河口郷、長房郷、椚田郷の名をあげて、それらの地に推定している。

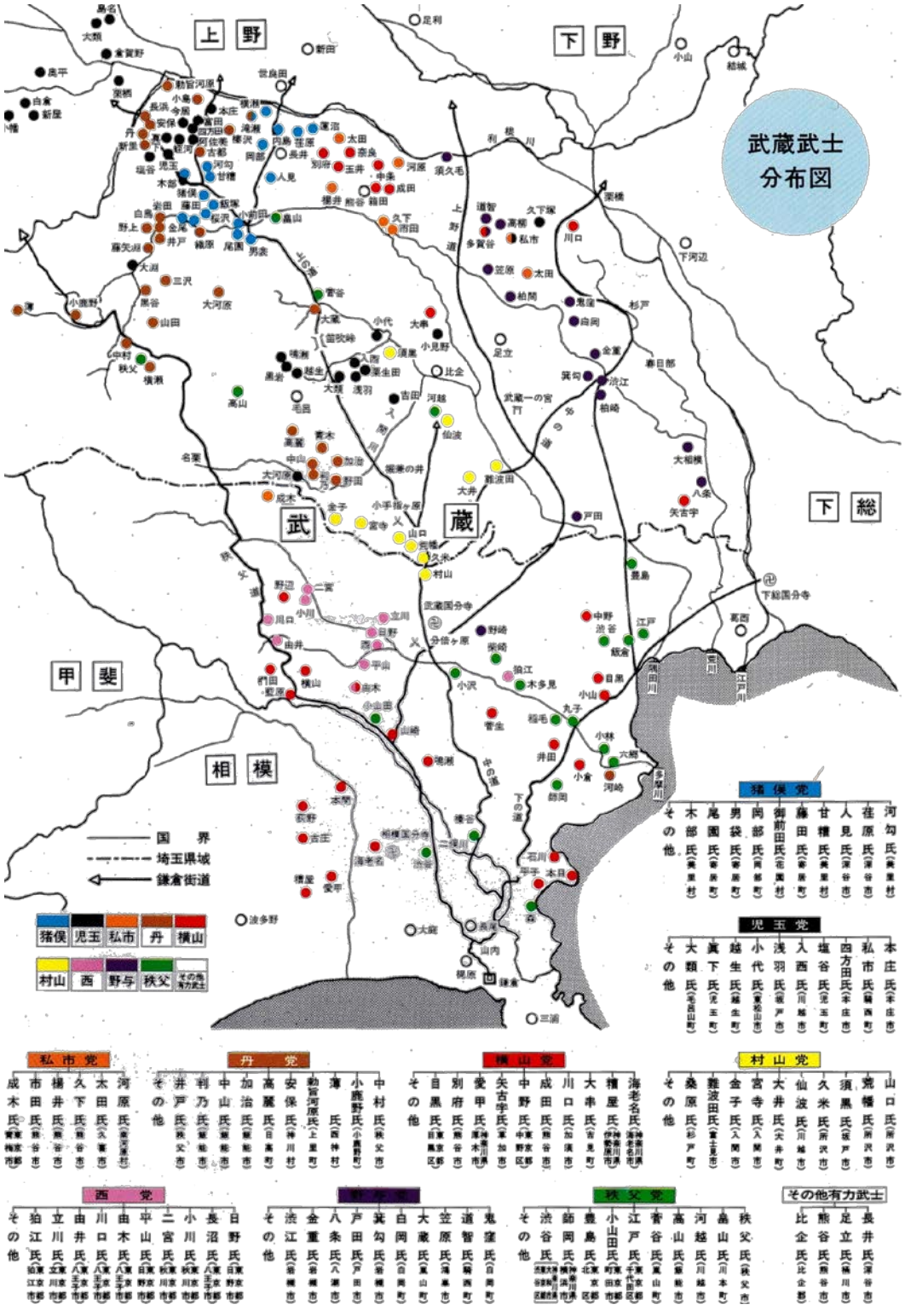
●横山村・①

明治二十二年（一八八九）から昭和三十年（一九五五）まであった村の名。現在の長房町、散田一～五丁目、並木町、山田町、椚田町、めじろ台一～四丁目、狭間町、館町、寺田町、大船町の地域。

江戸期以来の下長房、散田、下椚田、館、寺田、大船の六村が合併して成立。村名はこの地域に伝わる古代以来の広域名による。旧六村は横山村の大字となった。昭和三十年（一九五五）八王子市に合併。市横山事務所、横山第一、同第二小学校、横山中学校などに当時の横山の名が残っている。

●横山村・②

江戸期から明治前期にかけての村名。多摩郡小宮領のうち。江戸中期に谷地村が東西に分かれ、東側が横山村になった。同地はまた八日市村のうちの小名横山とも呼んだ。明治二十二年（一八八九）加住村の大字となる。のち昭和三十一年滝山町一～二丁目の一部となる。


武蔵武士
分布図
上野
下野
下総
武蔵
甲斐
相模
国界
埼玉県域
鎌倉街道
猪俣
児玉
私市
丹
横山
村山
西
野与
秩父
その他有力武士
猪俣党
児玉党
私市党
丹党
横山党
村山党
西党
野与党
秩父党
その他有力武士

武蔵武士分布図

●横山村・③

元八王子町の旧小字。同町二丁目の中央東よりの地。バス停元八王子二丁目を中心とした道の両側の地域で、東は城山川の岸まで。

●横山学舎

市立第一小学校の前身の一つ。明治六年（一八七三）六月二十五日、私塾玄泉堂に戸塚塾の生徒を集め、現在の八幡・八雲神社（元横山町）境内に学舎を開設。正式には第四十一番横山学舎。遠藤辨五、戸塚市左衛門、会沢天巌らが教授した。

明治八年（一八七五）八王子町立八王子学校になり、明治三十九年（一九〇六）町立八王子尋常小学校（現、市立第一小学校）となる。

⑤圓融山専念寺

元横山町二丁目

宗派　浄土真宗　本願寺派
本尊　阿弥陀如来
寺宝　阿弥陀如来立像
開山　不明
開創　天文十二年（一五四三）

京都西本願寺に属し当寺は、室町時代後期、天文十二年（一五四三）美濃国（岐阜県本巣郡本田）に建立。その後、明治十八年（一八八五）十四世住職により現在地に移り今日に至っている。なお、寺宝の阿弥陀如来立像は、親鸞聖人の作と云われている。

専念寺

【本宿（本町）】

中心市街地の中央北寄り。明治二十二年（一八八九）八王子町の成立により、それまでの八王子本町が本町となった。大正元年（一九一二）十月一日町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。江戸時代の八王子横山十五宿のうちの本宿である。

昭和四十三年（一九六八）住居表示を実施。中央部を甲州街道八王子バイパスが東西に開通。昭和五十八年（一九八三）まで八王子市役所があった。跡地に、八王子市文化センターいちょうホールが建設された。

●元横山町

中心市街地の北寄りに位置し、北部は浅川まで。明治二十二年（一八八九）八王子町制施行により、それまでの八王子元横山町が元横山町となり、大正元年（一九一二）十月一

日町名改正により、町名が確定。八王子市制施行を経て、昭和四十五年（一九七〇）住居表示を実施の際、元横山町の中央部が元横山町一丁目～三丁目となった。

江戸時代の元横山村の一部、中央を甲州街道八王子バイパスが東西に横切っている。近くに八王子警察署、第一小学校、妙薬寺、大義寺、専念寺、八幡八雲神社等がある。

⑥龍華山大義寺 都

元横山町二丁目

宗派　真言宗　智山派
本尊　薬師如来
寺宝　松原庵星布の墓 都
開山　徳翁法印
開創　延元二年（一三三七）

古くは寺名を大元寺と呼ぶ。第四世辨法印、十世清満法印がおり、清満は足利義稙（よしたね）と俗縁の関係があり、大永年間（一五二一～一五二八）に旧称「大元寺」を「大義寺」に改めたといわれている。また清満は、村内の八幡社・天満社（北野村）を勧請し、天竜寺（北野村）の開山でもある。その後、元禄年間（一六八八～一七〇四）真証上人が中興した。

境内には松原庵星布の墓、奥津雁江の墓、明治大火犠牲者供養碑が安置されている。

大義寺

●松原庵星布尼の墓

八王子十五宿の本町榎本家に生まれる。

「八王子横山村松原庵をとひて、星布尼にあふ歳七十六なり。俳諧の師白雄房也。白雄の師は鳥酔なり。品川鮫洲に松原庵とてありしを、鳥酔より譲られしという。耳もさのみとうからず、おとなしやかに健やかなる老婆なり。」と太田蜀山人に紹介され、尼は江戸伊勢派の女流俳人として世間に良く知られていた。

享保十七年（一七三二）、八王子本町の名主榎本家に生まれた。幼い頃から俳諧を志し、八王子の医師熊沢兀雨を介して江戸の俳諧師第一世白井鳥酔に師事し、師の歿後、春秋庵白雄に学んだ。天明八年（一七八八）、品川に庵を構えて、三世松原庵星布と称した。

そして寛政四年（一七九二）鳥酔の忌日に尼となり、鎌倉建長寺に入山して禅を萬拙和尚に学んだ。その

後、郷里八王子に帰り、人々に俳諧を教え、俳句を広めた。また俳聖松尾芭蕉を慕い、新町の永福稲荷の境内に「蝶の飛ぶばかり野中の日影かな」を表に「願得し秋の日影や日の面」と自分の詠んだ一句を裏面に刻んだ句碑を建てた。

文化十一年（一八一四）十二月二十八日没。享年八十三歳であった。墓所は元横山町の大義寺、正門を入り本堂の左側に建てられている。法名は「松原庵智海星布尼」という。墓石には辞世の句「咲く花も　ちれるも字阿の　自在かな」とあり、側面には「松原院梅総慈香法尼」とあるが、大義寺の過去帳には「松原庵智海星尼十二月二十八日、本宿榎本亦兵衛祖母」と記されている。亦兵衛は松原庵四世の榎本井之で、明治九年二月二十四日歿。

松原庵星布尼の俳句には寛政時代の風潮に馴染み、師の誹風に女性特有の繊細かつ清麗幽艶な味わいの句が多い。

「散り捨てて柳も元のすがたなる」
松原庵を構えた時の句
「きぎす啼く山は無声の響きかな」
建長寺入山した時の句
「萩の花見よや起せば地のしめり」
「磬の音月の夜桜人遠し」
「潮さきやかくす千鳥に潟をなみ」
「父は昔、百合は花咲く浮世かな」
百合の花の咲くのを見て、父を偲ぶ。
「月さびしうつしの槙はそれながら」
「言問ひも墓の秋風ありやなし」
「長き夜や思ひあまりの泣寝入り」
「九十九夜我も泣きしよ磯千鳥」
尼にとって師とも父とも慕う白雄の死に逢い、悲嘆する心情がよく表されている。
「咲く花もちれるも阿字の自在かな」
星庵辞世の句

松原庵星布が生まれたと云われる
本町　いちょうホール通り

松原庵星布尼の墓

●奥津雁江の墓

漢学者。小田原の人。奥津雁江は八王子に小学校以上の教育施設の無かった時、漢学の私塾を開設し、その教育に努めた。

雁江翁は天保十二年（一八四一）一月一日相州足柄上郡狩野に生まれ、名を広、字は胖父、通称定二郎と呼ばれていた。幼いときから学問を好み、小田原藩士今川象外に漢学を学び、国学を吉田信行にうけた。その後、江戸に出て古河塾に入り、さらに郷里に戻り漢学塾を開き進級教授法を考案して生徒を教育した。明治十二年には足柄上郡の学務委員兼訓導となる。また郡会議員となる。しかし、明治十四年八王子本町に移住。その年の十一月に「忠愛夜学校」を創設して町内の青年の教育に当たった。明治十八年四月に神奈川県の認可を受け、「耕餘誼塾」と改名して天王森（現八幡八雲神社）の西に塾舎を新築し、十五歳から三十歳迄の者を対象に教育した。明治三十年四月二十二日の八王子大火災には教場も罹災したが、大義寺の本堂を借り授業を続けた。また翌三十四年には文部大臣の認可を受けて、本町十六番地に私立漢学専門学校を設立し斯文学院と改称した。

大正七年五月十一日七十八歳で病没。辞世の句は翁の墓石に刻まれている。「獨笑の笑も贅や石一つ残して帰る阿字不生国」。菩提寺は元横山町の大義寺で、本堂西側の通路奥に自然石を積み重ね、上の石の正面に上の句、下の句は右側に刻まれている。

奥津雁江の墓

自然石を積み重ねた上の石の正面に
辞世の句の上の句が刻まれている

●明治三十年　八王子町の大火

明治時代に入って八王子町で起きた災害の中で明治二十六年八月六日と三十年四月二十二日の大火事が記録的大災害であった。

前者の大火事は「午後三時ころより夕飯上り迄八王子に大火あり行、焼失の訳、火元横山町六十九番地貸座敷、類焼七百戸余、土蔵十四ヶ所

焼落ル、高等学校一ヶ所、織物市場及び糸市場二ヶ所、国立銀行一ヶ所、私立銀行二ヶ所、監獄一ヶ所、其外、右之大火に候也」「火元横山町貸座敷、八日町、裏宿藪ノ内大横町際マテ焼ル」「石川日記」とあり出火の原因は放火で死者は一名・負傷者は一名と報告されている。「東京消防史稿」

また、明治三十年四月二十二日の大火事は次のように記されている。「八王子大火、大横町付近より出火、元横山町妙楽寺に飛び火し焼失面積は大横町、八幡町、小門町、本町、南新町、天神町、南町、寺町、三崎町、横山町、元横山町の大部分と旭町、東町、明神町、新町の全部、外に小宮村、下大和田の一部で全く鎮火したのは二十三日の払暁である。

戸数四千百六十七戸中罹災三千百三十一戸、人口二万二千八百三人中死亡者四十二名(内身元不明十八名)此死者中火力酷烈のため白骨となり、何人であるか識別し得ざるものも間々あり、其殊に著しきは、あんま横町の七人、大義寺横町の十二人、同一箇所にあり、其他は大概散在していた。負傷者は二百二十三名、損害八百万円、避難せる子供の大部分は甲武鉄道八王子駅より臨時列車で豊田駅等に避難した。(八王子)」

さらに石川日記にも、当時の惨憺たる状況が記載されている。

供養碑

明治30年の八王子大火の絵図

●大元寺横丁

元横山町

元横山町二丁目にある大義寺は、大永年間（一五二一～二七）以前は大元寺と称していた。寺の西側にある南北の道を今でも大元寺横丁と呼んでいる。

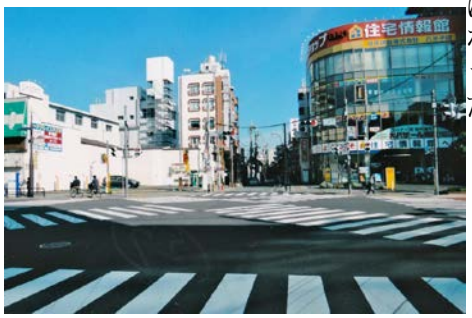
大元寺横丁（元横山町）
右の寺は大義寺

●小谷横丁

八日町・本町

甲州街道、横山町と八日町交差点から北へ入る通りの名。東の角の谷合弥七の米屋呉服店、西の角の唐物屋の大谷商店の名をとって米谷と呼ばれていたが、その後小谷姓に変わり小谷になったという説と、谷合弥七と小谷野貞助が土地を供出して小谷横町としたとの説がある。

平成元年（一九八九）、市道愛称名公募の結果、みずき通りと呼ばれるようになった。



小谷横丁入口（八日町と横山町の間）
手前は甲州街道交差点

⑦いちょうホール

本町

昭和五十八年（一九八三）まで八王子市役所があった場所。江戸時代は、八王子横山十五宿の本宿にあたる。市役所移転跡地に財団法人八王子市文化振興財団が運営する市の文化施設が建てられた。平成六年（一九九四）十月、最新の音響施設を備えた大ホールや多様な利用が出来る小室や茶室などに改修された。

小谷横丁（現 みずき通り）

⑧医王山聖天院 妙薬寺

元横山町

宗派　真言宗
本尊　不動明王
寺宝　不動明王　千手観音菩薩
　　横山氏供養塔 都
　　阿弥陀如来　聖天様
開基　清承法印
開創　文和四年（一三五五）
　多摩四国八十八霊場第七十五番札所。慶安二年（一六四九）薬師堂領

いちょうホール

七石の御朱印を賜る。元禄年間（一六八八～一七〇四）傳宗上人が中興。昭和二十年（一九四五）八月太平洋戦争により堂宇を焼失、現在の堂宇は戦後の再建による。昭和二十八年単立法人。境内及び周辺一帯は武蔵七党の一つ、横山党として知られているがその真偽のほどは定かでない。永禄三年（一五六〇）の「横山氏供養塔」がある。当寺前住職金岡秀友氏は文学博士で、著名な仏教学者として知られていた。

　戦災以前は、本堂、庫裏の東に続いて薬師堂があり、堂の南には永禄三年（一五六〇）造立の横山氏供養塔と伝えられる石造りの宝篋印塔があった。境内には欅、銀杏、松等の大木が繁っていて、夏には筵などを敷いて木陰に憩う老人や子供の姿が見られたという。

　薬師如来は「お薬師様」と呼ばれ目の病気に霊験があるといわれて、毎月十一日の縁日には、参拝者が多かったという。境内には露店や舞台もあって、旦那芸による説教、浪曲、落語、茶番なども催されたという。

　宝篋印塔は「横山様」と呼ばれて咳の神様として信仰が厚く、祈願者は青竹の筒に酒をいれて供えた。又「横山様は戦いのとき咽を患っていて声も出なくて殺された」という伝承もある。しかし戦災で凡ての堂宇は焼失。宝篋印塔は今の南に移され、薬師堂は本堂の北側に建てられた。今は民俗的な信仰や伝統行事は見られない。なお、現本堂の扉は金剛寺不動堂（日野市）の内陣の扉を移されたものである。

妙薬寺本堂（元横山町）

横山氏供養塔全景

横山氏供養塔

●山本張六夫妻の墓

山本張六夫妻の墓が境内にある。山本張六は、武田氏家臣で、近江源氏新羅三郎義光の末裔、山本勘助の曽孫にあたる。

山本張六夫妻の墓

薬師堂

醫王山妙薬寺門

●谷合為政功徳の碑

天保六年（一八三五）から明治二十年（一八八七）十月八日。生糸商。横山町に生まれる。幼名勘吉、通称弥七、晩年は弥二、諱為政。

塩野適斎及び戸塚塾の井上直寛に学ぶ。幕末は近藤勇に剣術天然理心流を学ぶ。龍紋織という毛織物工場創立。明治九年（一八七六）生糸改会社、のち生糸検査所設立。輸出生糸の改良に務める。明治十一年（一八七八）第三十六国立銀行創設、会頭就任、肖像写真（国立銀行券・交換券）が紙幣に印刷されたこともある。明治十八年織物不振で各地視察。

明治十九年（一八八六）二月八王子織物組合及び相武蚕糸改良協会設立。他方、川口寛一らと八王子第十五嚶鳴社を組織。

明治十二年（一八七九）二月から明治十五年五月及び明治二十年十一月から翌年一月まで神奈川県会議員。一時期議長も務めた。早くから洋服

をきていた。明治十四年（一八八一）墓所の妙薬寺境内に「谷合為政功徳碑」建立。

谷合為政功徳の碑

●松谷塾　松谷秀胖

明治前期の私塾。明治十二年（一八七九）ころ松谷秀胖が元横山町の妙薬寺前に創設した塾で、八王子学校に奉職しつつ夜学生に主に教授していた。明治二十年（一八八七）ころまで続いていたという。

●谷合弥八

生糸商。八王子学校新設に寄付。明治十三年（一八八〇）六月十六日には、巡幸中の天皇が寺町の谷合宅に宿泊したと云われている。

●谷合南涯

天保二年（一八三一）～明治十二年（一八七九）十二月二十九日。漢詩人。量平と称す。壮年時代国事に奔走。家督を譲ったのち、明治初年寺町に広壮な校舎を建てて育英事業を行う。南涯塾という。

「日本英雄百絶」のほか、明治十八年遺稿漢詩集「学山楼詩鈔」刊行。後者は、昭和四十七年（一九七二）山本正夫による現代文訳が出ている

●明治法律学校分校

明治十六年（一八八三）九月元横山町妙薬寺内で開校。同年同町の川崎有徳が東京麹町の明治法律学校（現、明治大学の前身）の分校設立に奔走し、開校したもの。

明治法律学校塾監依田二郎が分校教頭、教師に野崎勇年がなり、授業が行われた。後に横山町三丁目北裏に校舎を仮移転した。生徒は一時百名を数えたが、学生は中年以上の者で、ここを出ればすぐに裁判所に勤められるものと考えて入ってきた人達で、更に民法・刑法などの講義も難解であったため生徒はあまり増えず、経営困難に陥った。明治十八年（一八八五）廃校した。

●遊廓横丁

横山町の甲州街道沿いにあった。遊廓が八王子大火により、今の田町に移転。このころから甲州街道を挟んで郵便局の向かいの道が遊廓に通じることから遊郭横丁と呼ばれた。また、大門に入る暁橋通りを遊廓横丁と呼ぶ人もいる。

遊郭跡付近

遊郭横丁入口（横山町）
手前甲州街道

⑨毘沙門堂

元横山町

宗派　日蓮宗身延山
本尊　毘沙門天

昭和二十七年（一九五二）七月宗教法人に登録。以前は、八王子七福神の一つであったが、今は上野町の本立寺に変わっている。

毘沙門天は、四天王の随神多聞天のこと。四天王はインドの護世神であるが、仏教に入ると仏法とそれに帰依する人を守護する護法神となった。須弥山に住む帝釈天の輩下で、須弥山中腹の四方の門を守る神となった。持国天、増長天、広目天、多聞天がそれである。多聞天は、毘沙門天のことを云い、やがて七福神の一つとなった。毘沙門天の腹部にある鬼面を獅噛（海若）という。本来、水神であることから転じて、足元に踏む天邪鬼と呼ぶようになった。

毘沙門天

毘沙門堂

●田町

中心市街地の北端にある小さな町。大正元年（一九一二）町名改正で元横山町の妙薬寺北方の田地の一画に成立、のち八王子町、八王子市の町としてつづき、昭和四十五年（一九七〇）住居表示実施の際、元横山町との間に一部地域の変更をへて現行の田町となる。

江戸期以来、甲州街道ぞいにあった飯盛旅籠からひきついだが明治三十年（一八九七）の大火後に移転して来て生まれた。今は中央を東西に走る幅広い道路にわずかに旧観をとどめている。

⑩旧田町遊郭跡

田町

明治後期から昭和中期にかけて繁栄した八王子唯一の遊郭。明治三十年（一八九七）四月の大火によって、それまで横山町甲州街道沿いにあった遊郭が焼失。その後現在の田町に移転、田町の遊郭として繁盛を極めた。

明治末期には西玉楼・武蔵楼・今萬楼・宏陽楼・桝萬楼・大萬楼・三崎楼・大川楼・大桝楼・但州楼・福萬楼・吉濱楼・徳萬楼等が軒をつらねていた。昭和三十三年（一九五八）売春防止法施行によって、六十年にわたる田町遊郭の歴史を閉じた。

今の遊郭跡

辛うじて残っている遊郭の家

遊郭跡　大門脇にあった
御影石の小門（現、アパート）

●飯盛女

江戸時代、街道の宿屋で給仕や雑用をつとめ、遊女ともなった女性のことをいう。享保三年（一七一八）宿場助成の一つとして、宿屋一軒に二名の飯盛女を抱えることを許可したが、人数は常にオーバーし、取締りの対象となった。

八王子では宝暦年間（一七五一～六四）に飯盛旅籠が公認許可され、飯盛女が登場。公には給仕女と認められていたが実質的には売女であった。宿場の繁栄にも一役かっていたことで取締りも十分できず、遊女同然にエスカレートしていったこともあり、文政五年（一八二二）には、旅籠屋・飯盛女が検挙されたこともあったが、翌年には従来どおりの飯盛女が復活している。

文政七年（一八二四）の文政の大火後、不振続きの四日場は振興策として、甲州街道に散在している飯盛旅籠を四日場（現、ダイエー一帯）に集めた。飯盛女は次第に華美になり遊女化していった。明治初期には飯盛旅籠は貸座敷と名も改められ繁栄を誇ったが、明治二十六年（一八九三）に新万楼からの出火（新万火事）で遊女が焼死し、移転計画が検討された矢先、明治三十年四月二十二日の明治大火が起こり、それを契機に浦田・新地（現、田町）に移転し、田町遊郭をつくった。この遊郭も昭和三十三年（一九五八）売春防止法の施行により姿を消した。

●牛太郎とやり手婆さん

妓楼には（女郎屋、遊女屋、青楼）必ず一軒ごとに「牛太郎」と呼ばれる男がいた。客引きが主な仕事だが楼の玄関や入口を掃除したり、ときには客と娼妓（公認された売春婦）とのいざこざを処理する仕事もしていた。

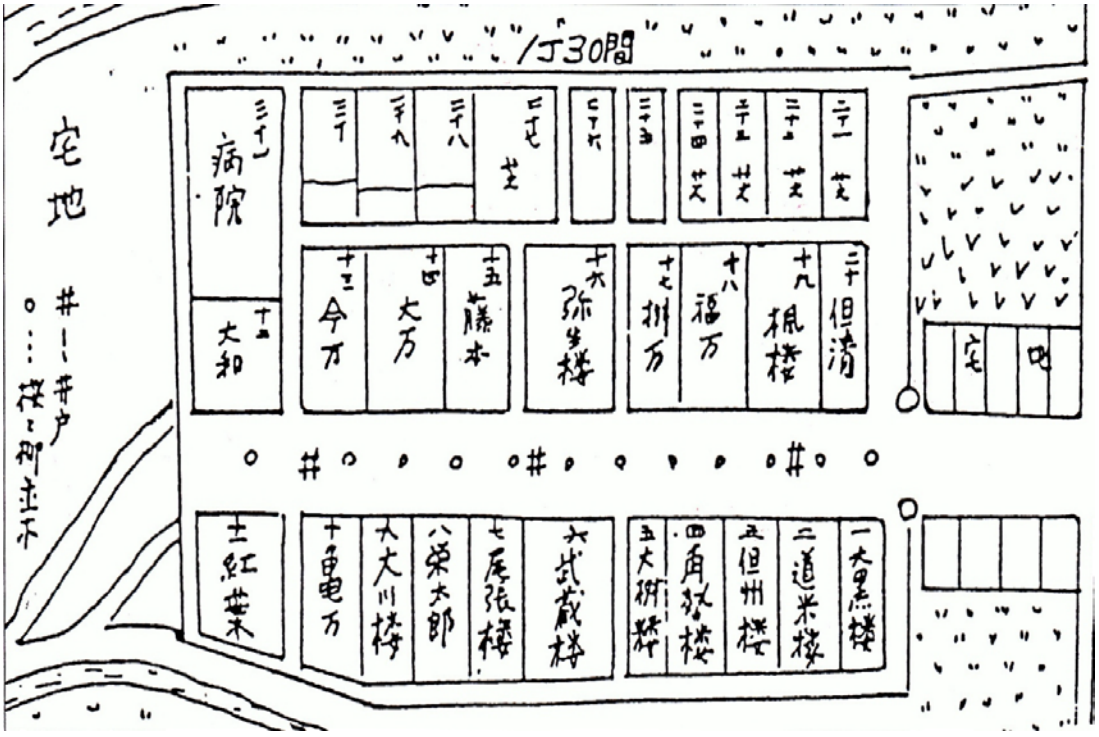
ところで昔の遊廓入口角で寿司屋をしていた尾張屋、今は「さくら」という食事屋に変わってはいるが、そこの女主人滝口文子さんは、爺ちゃんや婆ちゃんから聞いた、遊廓の悲喜交々の話しをポツリとしてくれた。「牛太郎はな！夕方になると、一尺五寸ぐらいの長いキセルを持ってよ！旦那が来ると、キセルの頭で旦那の袖をひょいとひっかけ、耳元でいい子がいるよ！といって、客を引き入れていくんだと！」と話す。

また「やり手婆さん」も一軒には必ずいて女郎達に厳しい郭の掟を教えたり、部屋割りから料金の取り立て、そして身のまわりの世話まで面倒を見ていた。女郎さんは「かあさん」と呼んでいた。

遊廓で働く女性達の多くは、女衒（ぜげん）や、判人といわれる人によって、品物のように銭で買われ、貧しい農家からきた人が多い。身請けしてもらう女郎さんは、幸せ者とまでいわれた。

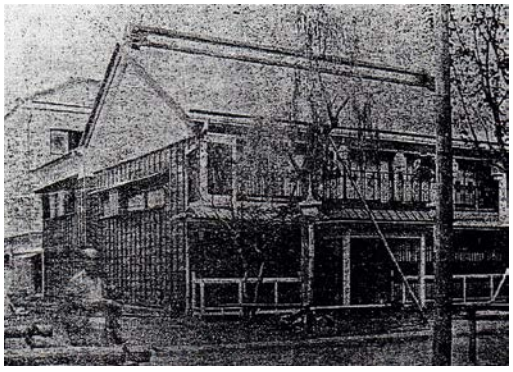
戦後は進駐軍のアメリカ兵専門の遊廓となり一時は日本人が入ること

ができない時もあった。
　滝口さんは、またポツリと話してくれた。「今は、誰も住んで居ないＮＴＴ社宅の門になっている御影石は大門の脇にあった石だよ！それよりもあすこに住んでいた遊廓を取り仕切っていた大女将はな、哀れにも女郎さんが死ぬだろう！火葬にした骨壺を坊さんにお経をあげてもらったあとよ！身内が引き取りにきても女郎が残した借金を返さないうちは引き渡さねえでよ！箪笥のなかに仕舞い込んでいたと！それがひとつやふたつじゃあなかったと！」
「悲惨な話は沢山あるさぁ！尽きぬほどさぁ！よかったら、またゆっくり話においでよ」と湯呑み茶碗に温いコーヒーをサービスしてくれた。
　今は、「さくら」食堂も女主人も居なくなっていた。

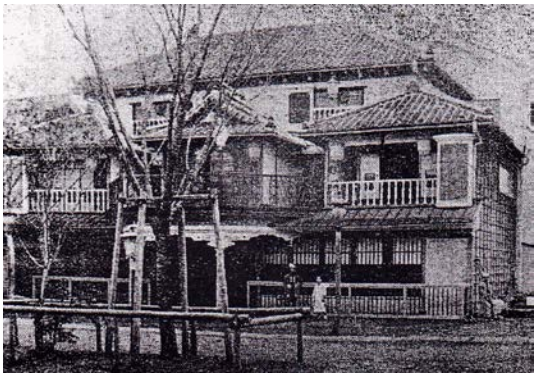


大正時代の遊郭
略　　図

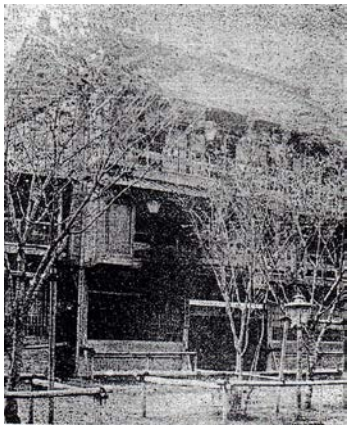
田町の光景　　大正 2 年　絵葉書



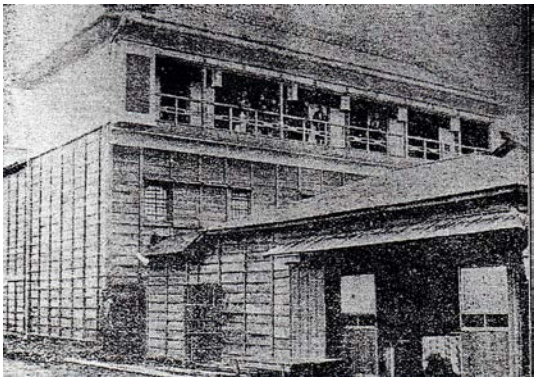
今 萬 楼



大 萬 楼



紅 葉 楼



大 枡 楼

⑪暁橋

暁町と元横山町を結ぶ、浅川に架かる橋。大正十二年（一九二三）に木造橋が架設され、昭和三十五年（一九六〇）コンクーリト橋に改架された。暁と命名した経緯は詳らかではないが、背景に遊郭の存在があったのではないかと想像出来る。

古今和歌集に「有明のつれなく見えし別れより　暁ばかり憂きものはなし」とある。

暁　橋

暁橋記念碑

暁橋之碑

●赤毛馬頭観音

浅川の浅川大橋と暁橋中間の南側土手脇に小さな赤毛馬頭観世音と地蔵様が安置されている。

日清日露戦争が始まると、国内でも軍用道路や海岸などに頑強な要塞を造る為の砂利が必要となった。八王子市を流れる浅川の砂利も需要が高まっていた。砂利を採取する労働力として人馬が必要であった。夏冬、昼夜を問わず過酷な労働が続けられた。馬も人以上に倒れ死ぬまで利用された。一頭や二頭ではなかったと云う。その供養の為であろうか。石塔には、「明治四十年五月四日建立」ときざまれている。また、付近から集められた地蔵が安置されているが、中には、浅川で水死した子供の地蔵様もあるという。

赤毛馬頭観世音

赤毛馬頭観世音と地蔵様（元横山町）

◎参考資料

・新編武蔵風土記稿
・武蔵名勝図絵
・新八王子市史
・八王子事典
・八王子寺院めぐり
・八王子市郷土資料館資料
・八王子空襲と戦災の記録
・パルテノン多摩博物館
　部門研究紀要
・八王子発見・路地散歩案内
・八王子の歴史と文化
・八王子名勝葉書
・日本総合図録
・明治時代の八王子
・インターネット各ページ
・郷土偉人伝
　多摩の民権家と民権結社
・八王子市地図
・八王子市観光マップ
・昭文社